

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票

【達成状況の目安】

- ◎：年度目標以上のものが達成できた場合
- ：年度目標が概ね達成できた場合
- △：年度目標の一部が達成できた場合

- ×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
- ー：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

資料 2-1

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の目標又は予定	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標又は予定	今後の課題と方針
稲毛海岸地区部会エリア	<p>令和5年3月31日時点</p> <p>【人口・世帯数】</p> <p>10,833人 4,647世帯</p> <p>【町内自治会数】</p> <p>17町内自治会（第38地区連協）</p> <p>【高齢化率】</p> <p>16.58%</p> <p>【地域の特徴】</p> <p>地区の北側は国道14号が東西に走り、東側は黒砂水路を挟んで幸町に、西側は真砂に接し、南側は高洲となる。埋め立て前は海岸線であったが、近年は高層マンションや一戸建て住宅街も建設されている。</p>	<p>コロナウイルス感染症の位置付けが第5類に変更されたことから、コロナ感染拡大状況を注視し感染対策を講じながら、地域活動ができる範囲のなかで再開させ、地域の活性化・地域住民同士の交流等を充実させていく。</p>	<p>・「ふれあい食事サービス」の再開を目指す。コロナが落ち着いた状況になっても、外に出なくなってしまう高齢者が増えていることが課題である。そのため、いきいきプラザの協力を得て、「健康フェスティバル」（測定会）を開催する。その際には、バスの送迎付きで、まずは外に出る・健康状況を知ることにより、地域の活動に参加してもらうことのきっかけとしたい。</p> <p>・高齢者対象のバス旅行も再開する。</p>	<p>・「ふれあい食事サービス」は、アンケートを実施し、その回答を持って議論を積み重ね、再開を検討したが、食数の確認や集金等を行うスタッフの確保が難しいことが判明し、実施は見送りとなった。</p> <p>・「健康フェスティバル」は、予定通り送迎付きで実施することができた。</p> <p>・高齢者対象のバス研修は、開催時期を検討している間に千葉市の補助金申請が間に合わず見送る形となったが、令和6年度の開催に向けての手応えはあった。</p>	○	<p>【重点取組項目】</p> <p>1（1）顔の見えるご近所づきあいの構築</p> <p>2（3）“みんなであい”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築</p> <p>・地区内にある4つの避難所運営委員会について、関係を強化し合同で何らかの訓練や防災イベントを実施できるようにし、自治会に加入していないところも巻き込んでいきたい。</p> <p>防災活動において、避難訓練・避難所開設訓練・安否確認活動や在宅避難方法についても各地区で差が出ないような取り組みを行いたい。</p>	<p>・地域運営委員会・町内自治連絡協議会・社協地区部会・青少年育成委員会・スポーツ振興会・民生委員児童委員協議会との連携を強化し、連携して町づくりを行ってきたい。</p> <p>・小学校・中学校・公民館・公園・自治会集会所といった場所を、もっと交流の場として活用し、世間話のコミュニケーション的な内容から見守り・安否確認・もしくは何らかの奉仕につながってくれる場を提供できるか検討したい。</p>
<p>Ⅰ 住民主体による協働のまちづくり</p>			<p>・サロン・見守り活動・支え合い活動等、地域活動従事者と参加者・依頼者などが、顔見知りとなり気軽に声をかけ合う関係性をさらに深め、コロナ禍で参加に慎重になっている高齢者にも参加を促し、見守りの環境をつくる。</p> <p>・「あんしんカード」の活用・普及により、誰もが安心して暮らせる環境づくりをさらに充実させていきたい。</p>	<p>・「いきいきサロン」や「子育てサロン」等、地区部会のサロン活動は予定通り実施、また4自治会での見守り活動も継続的に実施された。顔見知りの関係強化および見守りの関係を作ることができた。</p> <p>・民生委員（601地区民児協）を通じて「あんしんカード」の活用・普及を図った。</p> <p>・地域運営委員会を中心に地域内において、6月に「ごみゼロクリーンデー」、年末に「クリーン作戦」活動を行い、どちらも地域の環境美化に貢献することができた。</p> <p>・青少年育成委員会が主催している、地区内の遊歩道でのアジサイの植栽を小学校の児童・中学校の生徒・教職員・保護者・地域住民で行っており花のある散歩道づくりを展開している。</p>	◎	<p>【重点取組項目】</p> <p>6（12）オンラインや訪問相談等の活用による新しい情報伝達の仕組みづくり</p> <p>・SNSを活用したサロン等の情報提供。</p> <p>・デジタル回覧板の採用と活用。</p> <p>・スマホアプリを利用した地区限定の情報を発信していきたい。</p>	<p>・「あんしんカード」の普及とカードの内容更新について、進めていきたい。</p> <p>・個人のアカウントではなく地区のアカウントを作成することにより、個人情報の保護を図りながら情報提供等進めていきたい。</p> <p>・スマホ教室等を実施することにより情報機器に慣れていない年代の方にも漏れなく情報提供できる環境を整えていきたい。</p>
<p>Ⅲ 福祉を支える人づくり</p>			<p>・引き続き、青少年育成委員会とスポーツ振興会と共催で、多世代の参加するグラウンドゴルフ大会を開催する等、地域の方々が広く集まれるイベントを企画していきたい。さらに、ポッチャの普及にも力を入れ、さらに多世代を巻き込んで地域を支えていく町づくりを進めていきたい。</p>	<p>・すべて実施することができた。</p> <p>・見守り対象者に対して、見守り活動するための人づくりを継続。</p> <p>・セーフティーウォッチャーを行うことで保護者との顔繋ぎや連携になっている。</p>	◎	<p>・地域行事（祭り・スポーツイベント等）をこれまで通り行うことに加えて、障害を持っている方も巻き込んで、多くのボランティアの参加を促し、福祉活動の輪を広げていきたい。</p>	<p>・地域活動の担い手発掘のため、幅広い世代に対して、SNS等を駆使してイベント（地域行事）の参加をきっかけに地域活動参加への啓発等を促していきたい。</p>

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度） 個票

【達成状況の目安】

- ◎：年度目標以上のものが達成できた場合
- ：年度目標が概ね達成できた場合
- △：年度目標の一部が達成できた場合

- ×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
- －：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

資料 2-2

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の目標又は予定	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標又は予定	今後の課題と方針
<p>幸町2丁目地区部会エリア</p> <p>令和5年3月31日時点</p> <p>【人口・世帯数】</p> <p>11,660人 6,740世帯</p> <p>【町内自治会数】</p> <p>12町内自治会（第28地区連協）</p> <p>【高齢化率】</p> <p>32.02%</p> <p>【地域の特徴】</p> <p>東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで稲毛区に接し、地区内はUR都市機構が整備した千葉幸町団地が大部分を占め、国道沿いには中高層マンションのほか、スーパー、飲食店舗、自動車関連店舗などが立地する。西端は黒砂水路を挟んで高洲・稲毛海岸地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビニナートなどが集積する。</p>	<p>I 住民主体による協働のまちづくり</p>	<p>コロナウィルス感染症の位置付けが第5類に変更されたことから、コロナ感染拡大状況を注視し感染対策を講じながら、地域活動ができる範囲のなかで再開させ、地域の活性化・地域住民同士の交流等を充実させていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふれあいいきいきサロン」等については、コロナ禍前の状態にさせるよう徐々に再開させていきたい。 ・「幸町2丁目地区 支え合いの会」について、需要（ニーズ）が増えていく一方、活動者（協力員・サポーター）が不足していることから、活動を地区内の自治会単位での支え合い活動や有志の人たちの活動に引き継ぎ移行させ、今後も、出来る範囲のなかで需要（ニーズ）に応じていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幸町2丁目地区部会が主催する「ふれあいいきいきサロン」については、コロナ禍前の状態に戻せるよう徐々に再開させていった。 ・高齢者委員会と障害者委員会が合同で「ポッチャ」を行い、人的交流を図ることができた。 ・避難所運営委員会が中心となって、防災について意識を高めるように啓発を行ったり防災設備（マンホールトイレ・水の確保等）の充実に努めた。 ・住民が自主的に主体となって開催している交流の場「あじさい」や、URが中心となって見守りの場・健康推進の場を目的として実施しているポールウォーキング・ラジオ体操の実施により、地域住民の参加の広がりを見せた。 	◎	<p>【重点取組項目】</p> <p>1（2）地域福祉を推進する団体等の交流やネットワークづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幸町中央集会所のラウンジを活用して、週2回、集いの場「憩いの場 さいわい」を開催している。 ・「見守りネットワーク会議」を再開させる予定。 ・避難所運営委員会が主催して防災訓練を8月に実施予定。中学生も参加し、街全体の防災意識を高めさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再開された「ふれあいいきいきサロン」等の参加者数を、コロナ禍前までの人数に戻していきたい。 ・地域全体で“地域を巻き込む”ような活動・イベントを行うことが多世代交流や担い手の発掘に繋がっていくのではないかとと思われる。教育委員会や育成委員会と連携・協力しながら子ども達に昔あそび等を伝えていくことが必要ではないかと考えている。 また、地域の子どもの高齢者が一緒に参加・利用できるような「子ども食堂」の開設も検討し、多世代交流と孤食解消に寄与できるようにし、独居高齢者が増えているなかで弧の不安を解消できるようにしたい。
	<p>II 誰もが暮らしやすい環境づくり</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・地区内の自治会において、文化行事を再開させ、地域住民の交流の場の機会を設けることにより、見守り・安否確認へつなげていきたい。 ・地区部会や自治会が主体となって、健康体操を実施していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幸町2丁目地区部会が主催する「ふれあいいきいきサロン」において、シニアリーダー体操等健康体操をサロンメニューに取り入れて地域住民の健康増進を図った。 ・千葉幸町団地自治会（UR賃貸住宅）が主催する「お助け友の会」（助け合い活動）によりゴミ出し・買い物・自転車バンク訪問修理等、住民の困り事のニーズに応えた活動を行った。 ・地元諸団体等多機関で構成される「幸町2丁目連携会議」を、あんしんケアセンターが事務局となって開催した。 	◎	<p>【重点取組項目】</p> <p>4（7）地域での助け合い活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も引き続き、千葉幸町団地自治会（UR賃貸住宅）が主催する「お助け友の会」（助け合い活動）の活動を実施し、地域住民の困り事のニーズに応えられる活動を行っていききたい。 ・今年度も引き続き、あんしんケアセンターが事務局となって「幸町2丁目連携会議」を開催する予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当該地域では、UR賃貸住宅の社宅賃しが増えていることから外国人が増加してきており、地域のコミュニティの形成に支障をきたしてきている。多文化共生として既住民との交流を地域行事に参加してもらうことで図っていききたいと考えている。 ・子どもを通して親どうしの繋がりを形成していききたいと考えており、この繋がりがから高齢者や外国人が地域・社会から取り残されないようにできないか考えていきたい。 ・「幸町2丁目連携会議」を有効に活用させ、引続き情報の共有と連携強化に努めていきたい。
	<p>III 福祉を支える人づくり</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・地区部会活動の再開をきっかけに活動の実施のなかで、担い手を発掘・探していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幸町2丁目地区部会が主催する「ボランティア講座」において、千葉西警察署による「詐欺被害防止」に関する講座を開催し、参加した地域住民に対し、地区部会の存在や活動の周知、地域活動参加への呼びかけを行うことができた。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・幸町2丁目地区部会が主催する「ボランティア講座」を今年度も引き続き開催予定。 地域・地域住民が、公的機関（行政・警察等）との繋がりを保っていけるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもへの支援」という形で、イベント・行事を企画・実施し、地域行事の参加をきっかけに地域活動の担い手・協力者の発掘・確保を図っていききたい。 ・次世代の担い手の発掘の仕方（アプローチ）については検討する（考え直す）必要がある。 高齢化が進む幸町2丁目地区の中で探していくことは難しく、限界にきている。国・社会の意識を変えていく必要があるのではないかと。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票

【達成状況の目安】

◎：年度目標以上のものが達成できた場合

○：年度目標が概ね達成できた場合

△：年度目標の一部が達成できた場合

×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

資料 2-3

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の目標又は予定	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標又は予定	今後の課題と方針	
幸町一丁目地区部会エリア	I 住民主体による協働のまちづくり	コロナウィルス感染症の位置付けが第5類に変更されたことから、コロナ感染拡大状況を注視し感染対策を講じながら、地域活動ができる範囲のなかで再開させ、地域の活性化・地域住民同士の交流等を充実させていく。	◎健康スポーツの推進 ①男性を「交流の場（ふれあいいきいきサロン）」等に連れ出すため、バラスポーツの「ポッチャ」をサロンメニューとして取り込んで実施していく。 ②「健康体操」をサロン等に盛り込み、地元出身の理学療法士を講師に招いて、年4回程度実施していく。 ◎子どもたち対策 ①子供たちの居場所づくりとして、学習支援と食事をセットで組み合わせたCOCO塾を立ち上げて、8月から実施していく。 ②「祭り・盆おどり」を子どもから大人・高齢者まで多世代の地域交流の場となるよう、実施していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 幸町一丁目地区部会が開催している「ふれあいいきいきサロン」はコロナ禍前までの状態にまで戻し、「ふれあい食事サービス」においてはシニアリーダー体操・健康体操等を取り入れて実施している。 地区内の高齢男性を外に引っ張り出し、健康増進を目的に「ポッチャ・グランドゴルフ・ボーリング」の健康スポーツを推進させた。 地区部会主催の「バス旅行」を実施した。 36地区連協が中心となって実施している「幸町1丁目健康プラザ」は、要支援者対策・地域住民の通いの場として参加者同士の交流や健康等に関する講話・体操等が行われている。また、「ふれあいサロン」を毎週金曜日に開催している。 高齢者の生きがいづくりとして「人生万歳」を再開。地区内での昼間の町内パトロール、夜間の危険箇所パトロールを実施している。 地域の美化活動として、「朝風会」によるゴミ拾いや幸町公園での清掃活動、「幸町公園あじさいプロジェクト」で植栽等を行っている。 36地区連協が中心となって、医療機関・防災拠点・公共施設等が記された「地域安全マップ」を作成（更新・改訂）した。 災害対策を目的に「防災講演会」を開催し、地域住民の防災意識の向上を図っている。 	◎	<p>【重点取組項目】</p> <p>1（1）顔の見えるご近所づきあいの構築 ・「健康スポーツ」をさらに推進させていく。 特にポッチャは、子ども・大人・高齢者と三世代が参加しやすいことから、交流できるふれあいの場となるようにさせていきたい。 ・男性も参加しやすくなるような「ふれあいいきいきサロン」を作っていきたい。また「ふれあい食事サービス」をより一層充実させていきたい。</p> <p>2（3）“みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築</p> <p>2（4）防犯・防災対策を通じた地域づくり ・行政（市）が実施している、高齢者緊急通報システム（ALSOK）の活用を普及させたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子ども・大人・高齢者と三世代が参加し交流できる「ふれあいの場（サロン）」を作っていきたい。その手段として「健康スポーツ（ポッチャ）」を呼び込むツールとして、推進させていきたい。 「呼び寄せ高齢者」対策について、あんしんケアセンターと連携しながら考えていきたい。 地区内の高齢男性が参加しやすい交流の場としての「ふれあいいきいきサロン」「ふれあい食事サービス」を充実させていきたい。 地域住民のボランティアによる見守り活動については限界があることから、行政（市）が実施する「高齢者緊急通報システム（ALSOK）」の活用を勧め、鍵の管理・携帯電話（スマホ）の利用普及・GPS機能の活用等について改めて考えていく機会としていきたい。 学校の教員の働き方改革により、地域との連携の希薄化が懸念されることから、地域行事の協力体制についてどう対応していったらよいか、検討していく必要がある。 	
【地域の特徴】 東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで、中央区登戸に接する。地区内は高層低層の集合住宅が大部分を占め、一部戸建て住宅があるほか、国道沿いには大型事業所も立地する。西端は道路を挟んでJR千葉みなと駅や千葉市役所などが立地する中央区千葉港地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビニナートなどが集積する。			II 誰もが暮らしやすい環境づくり	◎既存の活動 ①既存の活動（「ふれあいいきいきサロン」「ふれあい子育てサロン」「ふれあい食事サービス」）を徐々にコロナ禍前の状態に戻していきたい。 再開後に、サロン等に来られなくなった人を、どう来られるようにするか。また、ふれ食の宅配（訪問）により安否確認の機会としているが届ける人をどう確保していくか。解決に向けて取り組んでいきたい。 10月頃にはふれ食を会食形式で実施させたい。 ②昨年度再開させた「バス旅行」を今年度も実施したい。	<ul style="list-style-type: none"> 「COCO放課後自習室」を、赤い羽根共同募金助成事業により年度間5回地区内在住の大学生による講師の協力を得て実施することができた。また地区部会の稼働事業として年度間15回実施した。 「安心サポートの会」では、高齢者に対する支え合い活動や訪問支援活動を行っている。 町内自治会が主体となって「夏祭り・盆おどり」を開催し、多世代の地域交流の場とすることができた。 36地区連協が「敬老の集い」を開催した。 買物困難者のための「金曜ふれあい市」を開催している。 	◎	<p>【重点取組項目】</p> <p>4（6）地域住民参加型の支え合い体制の構築 ・「CoCo放課後自習室」を引続き実施。ボランティア講師に今年度は千葉大生を予定している。 ・「安心サポート」の会による支え合い活動を引続き実施していく。</p> <p>5（8）地域の保健と医療との連携による心身の健康づくり</p> <p>6（10）誰もが身近に得ることができ、分かりやすい情報の発信 ・幸町一丁目地区部会の広報紙「小窓」（A4両面2ページ）を年間12回の発行のうち2回をカラー刷り4ページで発行する予定。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少や働き方改革により、バス・タクシーの運転手や宅配便の配達員が不足していくことから、今後、買い物や病院への移動に支障をきたすことが懸念され、その対策について考えていかななくてはならない。 災害時における「要支援者対策」として、どのように支援を行っていけばよいかについて考えていかななくてはならない。幸町一丁目地区は集合住宅が多く地域コミュニティが希薄なエリアもある中、支援する側・される側も高齢者であることから「災害対策」について今後、真剣に考えていく必要がある。 今後ますます進んでいくであろう「デジタル化・IT化」について、取り残される高齢者に対する支援策を考えていかななくてはならない。
			III 福祉を支える人づくり		<ul style="list-style-type: none"> 理学療法士による「健康教室」をボランティア講座として、年度間4回開催し、地域住民の健康増進と地域活動参加への周知を行うことができた。 「幸町公園あじさいプロジェクト」では、地域の美化活動としてだけではなく、研修会等を開催し環境に対する意識（ゴミ対策）を持ってもらうことにより、現役世代を巻き込んだ次世代のリーダーを養成するというねらいで実施することができた。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 理学療法士による「健康教室」を6回開催し、地域住民の健康増進と地域活動参加への周知を行っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 近年では、情報発信のツールとしてホームページを開設しインターネットにより行うことも多くなってきたが、多くの高齢者が慣れ親しんでいる「広報紙」をより充実させて地域情報を住民に直接呼びかけるような気持ちで発信していきたい。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票

【達成状況の目安】

- ◎：年度目標以上のものが達成できた場合
- ：年度目標が概ね達成できた場合
- △：年度目標の一部が達成できた場合

- ×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
- ー：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

資料 2-4

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の目標又は予定	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標又は予定	今後の課題と方針	
高洲・高浜地区部会エリア	<p>I 住民主体による協働のまちづくり</p>	<p>コロナウィルス感染症の位置付けが第5類に変更されたことから、コロナ感染拡大状況を注視し感染対策を講じながら、地域活動ができる範囲のなかで再開させ、地域の活性化・地域住民同士の交流等を充実させていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢住民の交流の場であり、見守り・安否確認の場でもある「ふれあい食事サービス」を調理・会食の形式で再開できるよう、検討・準備を行い、11月頃を目標に再開させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに順次再開されている「ふれあいいきいきサロン」に次いで「ふれあい食事サービス」も再開され、地域住民の交流の場として・外出の機会を与える場として、見守り活動・安否確認活動をすることができた。 	◎	<p>【重点取組項目】</p> <p>1 (1) 顔の見えるご近所づきあいの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すでに実施されている「ふれあいいきいきサロン」「ふれあい食事サービス」を地域住民の交流の場（顔を合わせられる場）として、より一層充実させていきたい。また、コロナ禍で休止していたサロン交流会を開催し、地区内11サロンの活動状況の情報交換を行いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・29地区連協を中心とした地域運営委員会で高州第二中学校の跡地利用について市に要望を行い、当該地域にとって有益となるような活用方法（避難所や高齢者が利用できる施設等）について、今後も検討していきたい。 	
<p>令和5年3月31日時点</p> <p>【人口・世帯数】</p> <p>38,431人 20,120世帯</p> <p>【町内自治会数】</p> <p>25町内自治会（第29地区連協）</p> <p>【高齢化率】</p> <p>32.07%</p> <p>【地域の特徴】</p> <p>区のほぼ中央に位置し、JR京葉線稲毛海岸駅があり、駅前には大型商業施設があるほか、行政施設としてコミュニティセンター・図書館、金融機関などの機能が集積し、その周りをUR都市機構の集合住宅団地や民間マンションなどの住宅地区が取り囲んでいる。北は稲毛海岸（町名）、南側は高浜に接しており、東側は黒砂水路を挟んで幸町、西側は草野水路を挟んで真砂・磯辺に接している。</p> <p>高浜地区は、海岸線に接しており、海辺には日本一の長さを誇る人工海浜や稲毛海浜公園が整備されている。隣接する高洲地区と連なった集合住宅団地の地区を形成するほか、西側に隣接する磯辺地区ほどではないが5丁目・6丁目にはまとまった戸建て住宅地区も存在する。</p>			<p>II 誰もが暮らしやすい環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙による広報・周知活動をきっかけに高洲高浜地区部会と美浜いきいきプラザが今後も一緒に活動できるようにし双方の交流を図っていききたい。 ・コロナの影響により閉じこもりにならないよう、住民を引っ張り出せるようなイベントを企画・実施していきたく、バラスポーツの「ポッチャ」を始めたい。 ・規模を縮小・短縮して4年ぶりの夏祭りを開催し、今後、本格的再開に向けた来年以降の第一段階としてコロナ後の新たな形として実施していききたい。 ・敬老会についても、コロナ後に対応した形式で工夫しながら再開させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高洲高浜地区部会が美浜いきいきプラザと協働で、健康測定会として開催し、地区内の地域資源が連携して活動することができた。 ・29地区連協・高洲高浜地区部会・老人会が稲毛海岸駅前の花壇の管理（水やり・手入れ）や駅前清掃を実施している。 ・自治会のない地区の高齢者を対象とした「敬老会」を開催した。 ・高浜5丁目地区において、町内自治会が主体となった地域支え合い活動が本格的に運用され始めた。 	◎	<p>【重点取組項目】</p> <p>3 (5) 町内自治会・集合住宅の集会所などの地域資源を活用した交流の場づくり</p> <p>5 (9) 健康づくりイベント等への参加促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すでに実施されている活動事業を、より充実させ、地域・地域住民に浸透させていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・独居高齢者・高齢者夫婦世帯の方だけでなく若い世代の方たちもいるような集いの場をつくり、世代間交流が図れるようにしていきたい。 ・介護相談室併設型のコンビニ（ケアローン）を活用したイベントを、連携しながら企画・実施していきたい。
			<p>III 福祉を支える人づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地区部会によるボランティア講座を実施し、新たな担い手の発掘と、住民にできるだけ外出の機会を提供することを目的として開催したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高洲高浜地区部会が美浜いきいきプラザと協働で健康測定会を開催し、多数の地域住民の参加があり、新たな担い手の発掘につながることができた。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の活動やイベント・行事のなかで地域の方に声をかけて、次の方（今後の担い手）につなげていけるようにしていきたい。 ・社協広報紙（地区部会だより）を活用して、新たな担い手（人材）を発掘していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の担い手発掘のため、幅広い世代に対して、イベント（地域行事）の参加をきっかけに地域活動参加への啓発等を促していきたい。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票

【達成状況の目安】

◎：年度目標以上のものが達成できた場合

○：年度目標が概ね達成できた場合

△：年度目標の一部が達成できた場合

×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

－：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

資料 2-5

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の目標又は予定	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標又は予定	今後の課題と方針
真砂地区部会エリア	<p>I 住民主体による協働のまちづくり</p> <p>II 誰もが暮らしやすい環境づくり</p> <p>III 福祉を支える人づくり</p>	<p>コロナウィルス感染症の位置付けが第5類に変更されたことから、コロナ感染拡大状況を注視し感染対策を講じながら、地域活動ができる範囲のなかで再開させ、地域の活性化・地域住民同士の交流等を充実させていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の交流の場である「ふれあい事業」をコロナ禍前のようにまで戻していきたい。 サロンメニューに健康体操やリハビリメニューを取り入れ、健康意識を高めてフレイル予防につなげていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ふれあいいいききサロン」「ふれあい子育てサロン」も、ほぼコロナ禍前の状態に戻すことができた。また、コロナ禍により休止していた「ふれあい食事サービス」も、徐々に再開することができた。 	◎	<p>【重点取組項目】</p> <p>1 (2) 地域福祉を推進する団体等の交流やネットワークづくり</p> <p>2 (3) “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の交流の場となる「ふれあいいいききサロン」「ふれあい食事サービス」等をさらに充実・活発にし、単身の（寂しい）高齢者が孤独感・疎外感を感じることをないようにしていきたい。また、地域活動従事者（住民ボランティア）がやりがいを感じられるような企画内容・結果にしていきたい。
<p>令和5年3月31日時点</p> <p>【人口・世帯数】</p> <p>25,290人 12,724世帯</p> <p>【町内自治会数】</p> <p>34町内自治会（第31地区連協）</p> <p>【高齢化率】</p> <p>32.14%</p> <p>【地域の特徴】</p> <p>北は国道14号に接し、花見川区及び稲毛区、一部は稲毛海岸に隣接し、花見川を挟んで西は若葉、草野水路を挟んで東は高洲地区に接する。南はJR京葉線の線路を挟んで磯辺に接する。</p> <p>区の東西の中央に位置した拠点地区であり、JR京葉線検見川浜駅付近から北側一帯に行政機関・商業施設などが集積されている。美浜区役所のほか美浜保健福祉センター・文化ホール複合施設、美浜消防署、真砂中央公園があるほか、千葉西警察署や西郷税務所などの県の機関も地区内に立地、駅周辺エリアには大型の商業施設や高層マンションが集まっている。</p>			<ul style="list-style-type: none"> 詐欺被害を防げるような、新しい知識・情報を提供できる勉強会を実施したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ふれあいいいききサロン」において、千葉西警察署による、詐欺被害防止に関する講座を実施した。 地域運営委員会が運営するホームページにより、真砂地区の地域情報を一括して提供し、地域活動の状況・様子を発信している。 	◎	<p>【重点取組項目】</p> <p>6 (10) 誰もが身近に得ることができ、分かりやすい情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏祭り等の場を活用して情報発信を行う。 引続き、地域運営委員会のホームページで情報発信を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の福祉意識（支える⇔支えられる）を高め、まちの価値を高めていきたい。また、空き家対策についてまち全体で検討し、防災・防火対策や感染症対策等につなげていきたい。 真砂地区は詐欺被害が多いため、さらなる対策（情報提供・発信）を講じていきたい。
			<ul style="list-style-type: none"> 他団体との交流を行うことにより、地域福祉に関する知識・視野を広げていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地区部会活動のPRを、音楽・芸能の発表によるイベント的な催物として開催（クリスマスコンサート）することにより、多くの人たち・地域住民に参加してもらうことで、活動の周知を行い、社協会員会費の増加にもつなげていくことができた。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 地域支え合い活動「ささえあいまさご」への新規依頼者も増えてきていることから、様々なニーズに対応できるよう、新たな活動者（協力員・サポーター等担い手）の発掘や、すでに活動している方たちへの再研修等を行い、活動を継続・充実させていきたい。 福祉サービス提供事業者の活動（ヘルパーによる掃除等家事援助サービス）を隣近所の人や「ささえあいまさご」の従事者が確認（点検）し、より質の高いサービスの提供につなげていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「支え合い」「見守り（安否確認）」の活動を行う「町内自治会」「社協」「地区部会」は活動の継続のため担い手を作っていくためにも「活動を見せる・見てもらう」ことが大事であり、そこから近所付き合いのあり方・距離感を考え直す機会にもしていきたい。 地域活動従事者（ボランティア・協力者）が活動にあたり達成感を感じられ、活動の士気・意欲が上がるようにすることで、新たな活動者の発掘をしていきたい。 特定の活動従事者に負担のかからないような仕組みを作り、活動の継続を図っていきたい。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度） 個票

【達成状況の目安】

◎：年度目標以上のものが達成できた場合

○：年度目標が概ね達成できた場合

△：年度目標の一部が達成できた場合

×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

資料 2-6

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の目標又は予定	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標又は予定	今後の課題と方針		
磯辺地区部会エリア	I 住民主体による協働のまちづくり	コロナウィルス感染症の位置付けが第5類に変更されたことから、コロナ感染拡大状況を注視し感染対策を講じながら、地域活動ができる範囲のなかで再開させ、地域の活性化・地域住民同士の交流等を充実させていく。	<ul style="list-style-type: none"> 見守り活動は、4自治会で実施予定。 「ふれあい事業」を中心とした地区部会活動を徐々に再開（リ・スタート）させていきたい。 地区内の地域ルームを活用して、フリーな交流・集いの場として「サロン」を開設させ、出入り自由なお茶飲み場・おしゃべりの場を開設・提供していくと同時に、見守りとしての機能も果たしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会の自治会館を活用した「ミニサロン」を新規開設・再開することができ、気軽に入浴できるお茶飲み場・おしゃべりの場というフリーな交流・集いの場として提供していくと同時に、見守りの場としての機能も果たすことができた。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 「ふれあいいきいきサロン」を当該自治会とその近隣の範囲程度で、「ミニサロン」として設置していけるよう注力していきたい。 高齢者の交流の機会の場として、地域の拠点である地域ルームで開催している「ゆるカフェ」を地域の高齢者に周知して、さらに充実させていきたい。 磯辺地区（33地区連協）28自治会の内4自治会で実施している「見守り活動」を継続させながら、さらに一歩進んだ「支え合い活動」へと転換させていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域課題の一つである高齢者福祉の推進にあたり、4自治会で実施している「見守り活動」を、「地域支え合い活動」へと展開・繋げていけるよう考えていきたい。 民生委員が窓口となって実施している「ミニサロン」を、さらに多くの自治会でも実施することを目指したい。 世帯の代替わりや新規流入者により、地区によっては若返っている自治会役員も出てきており、できる範囲で地域活動に参加してもらえるよう活動時間や活動内容に配慮していきたい。 		
令和5年3月31日時点			II 誰もが暮らしやすい環境づくり	コロナウィルス感染症の位置付けが第5類に変更されたことから、コロナ感染拡大状況を注視し感染対策を講じながら、地域活動ができる範囲のなかで再開させ、地域の活性化・地域住民同士の交流等を充実させていく。	<ul style="list-style-type: none"> 地域の拠点となっている地域ルームの備品・設備等を充実させ清掃を行うことにより、地域住民の方たちが気持ちよく利用できるようにすることで、社協会員会費に協力いただいた方たちに地区部会活動がコロナ禍により停滞していた分を還元できるようにしていきたい。 磯辺地区の「地域支え合い活動」における、支え合いコーディネーター会議を再開させたい。 地区内の町内自治会を中心とした様々な「祭り」を再開させ、異年齢・多世代・世代間交流を活発化させていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の拠点となっている地域ルームの備品・設備等を充実させ清掃を行うことにより、地域住民の方たちが気持ちよく利用できるようにすることで、社協会員会費に協力いただいた方たちに地区部会活動がコロナ禍により停滞していた分を還元することができた。 磯辺地区の「地域支え合い活動」における、支え合いコーディネーター会議を実施することはできなかった。 地区内の町内自治会を中心とした様々な「祭り」を再開させ（3ヶ所）、異年齢・多世代・世代間交流を行うことができた。 	○	<p>【重点取組項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4（7）地域での助け合い活動の推進 磯辺地区（33地区連協）で自治会単位で実施している「地域支え合い活動」について実施を検討している未実施の自治会に対し、実施に向けた啓発・説明を行っていきたい。 6（12）オンラインや訪問相談等の活用による新しい情報伝達の仕組みづくり 磯辺地区部会が主催する「ふれあい子育てサロン」の様子・情報を、インスタグラムで発信させていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者に関する最初の相談窓口である「あんしんケアセンター」や生活困窮者への相談窓口である「生活自立・仕事相談センター」のPRを積極的に行い、地域高齢住民に対して存在・活用の周知をさらに行う必要がある。 高齢者や社会的弱者に関する課題に対して専門諸機関を連携させて活用が図れるようにしていきたい。 地域課題を共有して解決策や支援体制を構築していけるよう、街ぐるみで高齢者対策について考えていかなければならない。 地域情報の発信・回覧・連協会議資料・自治会費の集金等について、今後、地域活動においてもインターネットの活用等デジタル化対応について考えていく必要がある。
【人口・世帯数】 18,900人 8,282世帯					III 福祉を支える人づくり	コロナウィルス感染症の位置付けが第5類に変更されたことから、コロナ感染拡大状況を注視し感染対策を講じながら、地域活動ができる範囲のなかで再開させ、地域の活性化・地域住民同士の交流等を充実させていく。	<ul style="list-style-type: none"> 磯辺地区部会が主催する地区部会活動の担い手人材の発掘・養成を目的とした「ボランティア講座」を開催したい。 また、声かけ・口コミ等による開拓もしてみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 磯辺地区部会が主催する「ボランティア講座」については、未だコロナウィルス感染の心配もあり、実施することができなかった。 	×
【町内自治会数】 28町内自治会（第33地区連協）									
【高齢化率】 35.19%									
【地域の特徴】 JR京葉線検見川浜駅及び京葉線の線路の手前まで、西は花見川を挟んで打瀬に接し、東は草野水路を挟んで高浜に接する。 駅の南側周辺には中高層マンションや団地が建ちならび、UR都市機構の磯辺第一団地等の大規模な団地がある。その外側には、定住性の高い戸建の住宅地が海に向かって広がっており、中高層の団地・マンションなどが立ち並ぶ。海岸の手前には県立磯辺高校、県立千葉西高校があり、県救急医療センター、海浜病院などの公的機関が存在する。									

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票

【達成状況の目安】

- ◎：年度目標以上のものが達成できた場合
- ：年度目標が概ね達成できた場合
- △：年度目標の一部が達成できた場合

- ×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合
- ー：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

資料 2-7

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の目標又は予定	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標又は予定	今後の課題と方針
幕張西地区部会エリア							
令和5年3月31日時点							
【人口・世帯数】	I 住民主体による協働のまちづくり		<ul style="list-style-type: none"> ・研修バス旅行を再開させたい。 ・「ふれあい食事サービス」を再開させたい。 ・育成委員会による小学生を対象とした「水ようかんづくり」を開催し、食育の啓発や世代間交流を行っていききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区内高齢者を対象とした、研修バス旅行を実施した。 ・コロナ禍により休止していた「ふれあい食事サービス」を再開することができた。 また、「ふれあいいきいきサロン」「ふれあい子育てサロン」も徐々にコロナ禍前の状態に戻していくことができた。 ・育成委員会による小学生を対象とした「水ようかんづくり」を開催し、食育の啓発や世代間交流を行うことができた。 	◎	<p>【重点取組項目】</p> <p>2（3）“みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕張西地区部会が主催して、小学3年生以上を対象とした「料理教室」を開催する。 ・「幕西5656食堂」（地域子ども食堂）を地元のスーパーからの支援や助成金を受けながら開催させていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幕張西地区部会エリア（30地区連協）15自治会の内、見守り活動が立ち上げられていない2自治会に対して、引き続き「見守り活動」の実施について働きかけていきたい。
11,862人 4,889世帯							
【町内自治会数】							
15町内自治会（第30地区連協）							
【高齢化率】							
20.68%							
【地域の特徴】	II 誰もが暮らしやすい環境づくり	<p>コロナウイルス感染症の位置付けが第5類に変更されたことから、コロナ感染拡大状況を注視し感染対策を講じながら、地域活動ができる範囲のなかで再開させ、地域の活性化・地域住民同士の交流等を充実させていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幕張西地区部会が主催するふれあいいきいきサロン「いきいきマルシェ」のサロンメニューの検討を行い、サロンを活性化させていきたい。 ・幕張西地区部会が発行する広報紙「YOU&I（ゆーあい）」の紙面をさらに充実させて地域情報の発信を図っていききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幕張西地区部会が主催するふれあいいきいきサロン「いきいきマルシェ」のサロンメニューを検討しながらを開催し、近隣住民のふれあいの場となるよう努めた。 ・幕張西地区部会が発行する広報紙「YOU&I（ゆーあい）」を従来どおり年度間2回、これまで以上に充実した内容で発行することができた。 ・30地区連協が主催する「夏祭り」を、再開した昨年度よりも内容を充実させて開催することができた。 	◎	<p>【重点取組項目】</p> <p>3（5）町内自治会・集合住宅の集会所などの地域資源を活用した交流の場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕張西地区部会エリア（30地区連協）において、安全・安心のまちづくりを目指して秋頃に防災訓練を実施する予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・30地区連協が主催する「夏祭り」が、地域住民の交流の場・親睦の場・地域づくりの場としてこれからも継続して開催させていけるよう地域内の各団体と連携・協力していきたい。
<p>区の北西端に位置した国道14号と東関東自動車道との間に広がる住宅地域。</p> <p>浜田川を挟んで東側は花見川区幕張町、国道14号を挟んで北側は花見川区幕張本郷、西側は習志野市、南側は浜田に接している。</p> <p>国道沿いにはゴルフ練習施設のほか、商業店舗が立ち並んでいるほかは、戸建て住宅地域が広がっている。</p> <p>国道14号より海側はかつての海岸線であるが、幕張西地区よりも埋め立ての時期が早かった地域については花見川区幕張町に編入されている。</p>							
	III 福祉を支える人づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・行事（公演会）の開催、声かけ（口コミ）や広報紙を通じて地域活動の担い手を発掘していききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幕張西地区部会が、「ボランティア講座」を開催し、地域住民に対して地区部会の存在や活動を周知し、地域活動参加への呼びかけを行うことができた。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふれあい食事サービス」の活動についてはヘルスメイト・町内自治会・社協 地区部会が協働して取り組んできた。 また、参加者にも声かけを行い、手伝ってもらうことから新たな人材を発掘していききたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の担い手不足は現実的な問題となっており、活動継続のためにも新たな人材を発掘していききたい。 ・再開された「ふれあい食事サービス」の調理ボランティアを発掘していく必要がある。

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況（令和5年度）個票

【達成状況の目安】

◎：年度目標以上のものが達成できた場合

○：年度目標が概ね達成できた場合

△：年度目標の一部が達成できた場合

×：年度目標が全く達成できなかった、又はほとんど達成できなかった場合

―：達成状況の評価をしない、又は評価が困難である場合

資料 2-8

地区部会エリア	基本方針	取組項目	令和5年度の目標又は予定	令和5年度の実績	達成状況	令和6年度の目標又は予定	今後の課題と方針	
<p>打瀬地区部会エリア</p> <p>令和5年3月31日時点</p> <p>【人口・世帯数】</p> <p>24,778人 9,254世帯</p> <p>【町内自治会数】</p> <p>27町内自治会（第47地区連協）</p> <p>【高齢化率】</p> <p>11.57%</p> <p>【地域の特徴】</p>	<p>I 住民主体による協働のまちづくり</p>		<p>・打瀬地区部会では、コロナ禍により活動自粛（中断）せざるを得なかった「ふれ食・バス旅行・おやこカフェ」等の事業を、より魅力的な企画・工夫をしてコロナ後（アフターコロナ）に見合った活動としてなるべく早期に再開（リスタート）させたい。</p> <p>・5月に「ペイタウンまつり」を開催。家族の輪・地域住民の輪づくりやフレイル予防等、子どもから高齢者までが街に出てきてもらうことを目的として4年ぶりに実施。延べ2万人位の人が集まった。今後も、商店会や育成委員会と協働して夏祭り・盆踊り・ハロウィンイベント等を実施していきたい。</p>	<p>・打瀬地区部会では、コロナ禍により活動自粛（中断）せざるを得なかった「ふれ食・バス旅行・おやこカフェ」等の各種活動事業について、より魅力的な企画・工夫をしてコロナ後（アフターコロナ）に見合った活動にしていこうと既存事業の拡充・事業の廃止等、様々な角度から検証・検討を行っていた。</p> <p>・5月に「ペイタウンまつり」を開催。子どもから高齢者までが街に出てきてもらうことを目的として実施した。8月に「夏祭り」を開催。10月に「ハロウィンイベント」「コアフェスタ」を開催。12月に幕張メッセ国際会議場において「幕張新都心クリスマスイベント」を開催。1月に「ペイタウンマラソン大会」「餅つき大会」を実施。3月に「備えパーク」（防災対策）を実施した。街全体の事業として47地区連協を中心に商店会や育成委員会と協働して実施することができた。</p>	◎	<p>【重点取組項目】</p> <p>2（4）防犯・防災対策を通じた地域づくり</p> <p>・防災対策として「備えパーク」を引き続き実施し、いざという時の消防・防災・ペット対応等について学んでいきたい。</p> <p>・令和5年度に実施した左記事業については、引き続き継続して実施し、各事業を地域に根付かせていきたい。</p>	<p>・各種団体・組織による事業において、地域のニーズ（要望）に応じながら各事業を継続させていき、根付かせ、一定期間（3年程度）を過ぎたところで振り返り、評価していくというルーティーン（流れ・仕組み）が必要である。</p> <p>・打瀬地区部会・47地区連協と地区内の商店会・民間企業等と、連携・協働しながら街づくりを進め、強化し、地域住民の期待・楽しみに応えて行けるようにしていきたい。</p> <p>・防災対策・要支援者対策について、ペイタウンの街区単位で対応・完結できるよう各住民に対しても意識づけをしていきたい。</p>	
<p>東側は花見川、西側・南側は幕張海浜公園、北側はJR京葉線の線路に囲まれた幕張新都心地区の高層マンション地区。他の幕張新都心地区と同様に県企業庁により計画的に整備され、沿道中庭式の中層住宅を中心に、石畳風の道路舗装やデザインされた信号機などヨーロッパ風の街並み景観で統一されている。</p> <p>中心部には図書館と公民館の複合施設である「ペイタウンコア」があり、各種活動の中心となっているほか、プロムナードやバレンタイン通り沿いの住戸を中心に1階には幕張ペイタウン商店街振興組合の店舗が軒を連ねている。</p> <p>平成24年にはシーサイドデッキが完成し、海沿いの幕張海浜公園・幕張の浜エリアへの動線が確保され、海がより近い存在となった。</p>		<p>II 誰もが暮らしやすい環境づくり</p>	<p>コロナウィルス感染症の位置付けが第5類に変更されたことから、コロナ感染拡大状況を注視し感染対策を講じながら、地域活動ができる範囲のなかで再開させ、地域の活性化・地域住民同士の交流等を充実させていく。</p>	<p>・打瀬地区部会が実施する「VR発達障害体験会」や認知症に関する映画の上映会を、引き続き実施していくことにより障害に対する理解をさらに深め、障害者やその家族に対する支援へと発展させていけるようにしていきたい。</p> <p>・「グリーンスローモビリティ」の実用化に向けた勉強会を実施し、街のにぎわいや街全体の認知度が高まるよう検討していきたい。</p> <p>・「子ども円卓会議」で実施している「あいさつ運動」を今後、校内から街なかでの実施にまで広げていきたい。</p> <p>・ペイタウン内を子どもたちが街歩きしながらゴミを拾い集める「ペイタウンクリーン作戦」を実施し、今後、子どもだけでなく大人（保護者・地域住民）にも参加してもらえるようにしていきたい。</p>	<p>・打瀬地区部会が実施する「VR認知症体験会」「VR発達障害体験会」や認知症に関する映画の上映会（ケアニン）を、計画どおり開催し、認知症・発達障害等に対する理解をさらに深めていくことができた。</p> <p>・「グリーンスローモビリティ」の勉強会を実施した。</p> <p>・「子ども街歩きクリーン作戦」では、ゴミ拾いをしながら幕張メッセを視察する等地域内の施設に協力を得ながら地域に還元できるような活動を実施することができた。</p>	◎	<p>【重点取組項目】</p> <p>3（5）町内自治会・集合住宅の集会所などの地域資源を活用した交流の場づくり</p> <p>・ペイタウン商店会が運営するコミュニティスペース「絆」において、認知症カフェ・麻雀サークル・音楽会・書道教室等が開催されている。</p> <p>・打瀬地区部会が実施する「子育て・発達障害勉強会」や認知症に関する映画の上映会を実施し、発達障害・認知症等に対する理解を深め、支援していくことに繋げていきたい。</p> <p>・「グリーンスローモビリティ」の本格実証調査行い交通弱者を外に出やすくするという目標に向けて運用方法について検討していきたい。</p> <p>・「子ども街歩きクリーン作戦」では、地域内のゴミ拾いをすることから環境問題に関心を持ってもらうため、夏祭りでの特典を付ける等して多くの子ども達に参加してもらえよう工夫していきたい。</p>	<p>・打瀬地区部会では、障害を持つ人とその家族に対する支援を引き続き行い、強化していきたいと考えており、障害に対する正しい理解を得たうえで、当事者やその家族への支援の意識を定着・高めて行けるようにしたい。</p> <p>発達障害に対する支援も浸透させ、親御さんが気軽に集まれるような場所（フリースペース）を設けていきたい。また、その悩みに個別に对应していけるような機会を作っていきたい。</p>
		<p>III 福祉を支える人づくり</p>		<p>・打瀬地区部会では、今年度も引き続き地域活動担い手の発掘・養成を目的とした「ボランティア講座」を実施。地域住民の興味が湧くような・ニーズに応えた講座を開催していきたい。</p>	<p>・打瀬地区部会が主催する「ボランティア講座」等を年度間6回開催し、地域住民に対して地区部会の存在や活動を周知し、地域活動参加への呼びかけを行うことができた。</p>	◎	<p>【重点取組項目】</p> <p>8（14）ボランティア人材の育成</p> <p>8（15）ボランティア活動への参加促進</p> <p>・打瀬地区部会が主催するボランティア講座「健康フェスティバル」は、地域に根付いてきていることから引き続き今年度も実施し、開催することにより地域住民に対し地区部会の周知や活動参加への呼びかけを行ってきたい。</p> <p>・市立海浜病院が主催する地域住民の健康増進を目的とした打瀬地区住民向けの「糖尿病予防セミナー」を開催し、地域内施設の地域貢献活動に協働していきたい。</p>	<p>・地域住民が興味を持ってもらえるような企画のイベントを地区内各種団体・組織と連携して実施したい。実施により参加した住民が主催者側に関心を持ってもらうことにより「人づくり・担い手の発掘」につなげていきたい。また地域づくり・地域福祉に関心を持ってもらい、世代を超えてお互いが気軽に声を掛けあえる・手を差し伸べられるような環境を作っていきたい。</p> <p>・地域活動を行うボランティア・担い手の発掘にあたっては、漠然と募集・探すのではなく、活動してほしい分野・テーマをしばって募集すると集まりやすいのではないかとと思われるので今後、募集にあたっての声のかけ方についても工夫をしていきたい。</p>